

令和6年度

近畿大学附属小学校 学校評価 総括



近畿大学附属小学校

KINDAI UNIVERSITY ELEMENTARY SCHOOL

2024 年度 基本方針など

私立幼稚園・小学校の新しい形を構築する 経営状況の健全化

1. 私立小学校、私立幼稚園としての付加価値を高める

【教員】

- ・私立学校の教員に相応しい言葉遣い、身だしなみ、態度、品位などを常に意識する
- ・質の高い授業、保育を提供する
- ・不登校、不登園予防やインクルーシブ教育への造詣を深める
- ・幼稚園、小学校で教育理念を共有する

【教育環境・教育内容】

- ・安全で安心できる教育環境を提供する
- ・ICTを活用した新しい授業の構築
- ・4技能が身につく英語教育
- ・楽しみで待ち遠しく感じる行事
- ・あいさつ、返事、履き物を揃えるなどの基本的生活習慣を身につける
- ・思いやりのある子、一隅を照らす人を育てる

2. 時代のニーズに合った小学校・幼稚園への脱皮

- ・非認知能力を高める取り組みの研究および実践
研修などで広く実践例を学び、日々の活動に活かす
- ・進化し、社会に拡大する人工知能（AI）の時代に対応できる人の育成
AIとの対話力、豊かな発想、判断力など
- ・新しい実践を行い、長期的な追跡調査が可能なエビデンスを蓄積していく
- ・適切な募集定員および小学校、幼稚園の将来像を策定する

3. 学力の保障

【授業の主眼】

- ・中学校の授業を十分理解できる基礎学力、語彙力を確実に養う
- ・児童が主体的に学び、達成感を得ることができる

【授業の改善】

- ・知的好奇心を刺激する授業
- ・理解力に応じた個別対応の課題など

4. 経営状況の改善

- ・募集定員を確保し、安定した経営に資する
- ・増加する共働き家庭にも支持される小学校、幼稚園への改革
- ・学童保育、預かり保育の拡充を図る
- ・ケータリングの回数を増やすことを検討する
- ・募集について、在校生、卒業生の保護者、同窓会などにも協力を求める。
- ・ペーパーレス化、適切な空調の運用など高いコスト意識を持つ

5. 学校評価について

(1) 学校評価の種類

自 己 評 価：教職員による評価ならびに、児童アンケート・保護者アンケートによる結果（10月・2月実施）

学校関係者評価：附属中・高等学校校長、附属幼稚園教頭、近友会会長、保教会会長、校長、教頭、教務部長により構成する評価委員会が、自己評価の結果について評価するとともに、改善策等についての提言・勧告を行う。（通常3月に実施）

(2) 評価基準

S:目標を上回って達成した(5.0～4.5)

A:目標どおり達成した(4.4～3.8)

B:取り組んだが達成できなかった(3.7～3.1)

C:ほとんど取り組むことができず、目標も達成できなかった(3.0以下)

(3) 自己評価について

① 教職員による評価

I. 学校経営の重点		
(1) 目 標		
○ 時代のニーズに合った小学校への脱皮を図り、信頼される学校づくりをめざして組織的な学校運営を行う。		
○ 開かれた学校・信頼される学校をめざし、学校あるいは学年・学級として抱えるいじめ問題をはじめとする課題に対して、組織的な対応を行う。		
○ 限られた予算を子どもたちにとってよりよい学校になるよう、効率的に運用する。		
評 価 項 目	取り組む内容(指針)	達成状況
① 学校運営	これからの少子化を見据えて、小学校の将来像を策定するために、個別最適な学びやインクルーシブ教育に積極的に取り組む。	B
② 組織対応	学年・学級でいじめ問題等の課題が起きにくい環境づくり、いじめを許さない環境づくりを学校全体として取り組み、事案が確認できた際には、迅速に初期対応を行うとともに、上席への報告・連絡・相談、上席からの助言・指示を組織的に行う。	A
③ 教員の意識改革	限られた予算を子どもたちのために運用できるようにするためにペーパーレス化や光熱水費削減等、高いコスト意識を持つようにする。	A
結 果 と 分 析 ・ 次 年 度 へ の 改 善 点		
①一人一人の児童に対して、その児童に応じた取り組みができた。（算数科での自由進度学習や難易度を変えたワークシート、生成AIの活用など）		
【課題】 発達特性のある児童に対しての指導体制が十分でない。担任一人での対応が難しく、特別支援サポーター等の人的確保や教育相談室のあり方を考えることが課題である。		
②トラブルが起きた場合、学年主任・学年主事に報告し指示を仰ぎながら迅速な対応ができた。また、内容によっては管理職に報告し、保護者と懇談するなどの対応ができた。学年として定期的に学年集会を開き、言葉遣いや態度、人間関係の良好な構築等について話をした。		
【課題】 上席に報告を上げて組織対応をしたことで初期対応に遅れが出てしまったことがあった過年度からの引き継ぎ事項が上手くいっていないと感じられることがあり、保護者からも組織対応の不備を指摘される可能性があった。管理職の中でも情報共有をしておいてほしい。また個別対応が必要な児童が増えてきており、人員不足を感じている。		
③学年通信等の配布物や学習で使用する資料等をタブレットに配信することで、ペーパーレス化が進められた。学習場面では、紙とデジタルを選択できることも大切なので、選択肢としている。		
【課題】 紙を使用しなくなったことで、学習に少なからず影響が出ているのではないかと感じる。紙を使う場面とデジタルを使う場面を明確にすることが大切だと思う。また、ペーパーレス化によりデータが分散してしまっており、検索に時間がかかっている。データの中には特定の教員しかアクセスできないものもあり、校務用のicloud等の対応が必要だと感じる。私学教員として授業料に見合った教育を提供できているのか個々の意識改革と管理職の現状把握・指導・助言の徹底が必要だと思う。		

2. 学習指導・研修の重点		
(1) 目 標		
○ 時代のニーズにあった小学校・幼稚園への脱皮するために、多くの情報を収集し、研修や他校見学などを通して広い視野を持ち多くの実践から学ぶ。		
○ 高い学力を保証するために日々授業改善に努め、児童の知的好奇心を刺激し、主体的に学べるような授業づくりを試行錯誤する。		
○ デジタル化の推進と共に保護者への理解を進める取り組みを行い、子供達に高いデジタルシティズンシップを身につけさせる。		
評価項目	取り組む内容(指針)	達成状況
①研修	進んで研修やセミナー、他校の学校見学などに参加し、多くの情報を取得し視野を広げる。	B
②授業改善	実践記録や教材研究シートを活用して、学力向上のために子供の意欲と主体性を高めるための授業改善に取り組む。	B
③デジタル化	デジタル化の推進とともに保護者への発信を積極的に行う。	A
結 果 と 分 析 ・ 次 年 度 へ の 改 善 点		
【成果等】 ・他校を見学することで、本校の課題や良いところを見つけることができた。 ・中高の先生、大学の先生と情報交換を行う機会も多かった。 ・他校のタブレット使用の現状、新小中一貫校の見学をして、各学校でも様々な学習形態を迷いながら進めていることがわかった。 ・月に1回程度研修に参加したり、他校を見学しに行ったりした。 ・研究会に所属し、毎月例会で研修を続けている。 ・私立小学校にとらわれず公立学校の研究会にも参加して見識を広げた。 ・セミナーや研修に参加したが、いろいろな考え方があるため、ゆっくり読み解く時間を確保したい。 ・ロイロノートで紹介されている実践報告を参考にして、負担減・時短などのメリットが見られた。 【課題等】 ・外部との繋がりを広げていかないといけないと感じる。 ・研修やセミナーに業務上参加しにくい。 【成果等】 ・自由進度学習に取り組み子供の学習意欲を高めることができた。 ・全単元で自由進度学習を取り入れることができ、前年度よりも自由度を上げることができた。 ・一斉授業からの脱却や複線型の授業を意識して取り組んでいる。 班別進度実験を取り入れた。 ・1枚ポートフォリオで毎回の学習を振り返らせていることで学習の定着につながっている。 ・児童主体で、それぞれの学習方法で進めていける単元構想をしてきた 生成AIの活用も進めている。 ・実践記録を参考に組み組んだ。 ・単元構成やルーブリックを考える際に生成AIを活用して壁打ちをしながら改善に努めている。 【課題等】 ・業務の精選と放課後のゼミ等の時間の再考が必要。 ・形成的評価が行えなかった単元もあるので、来年度は改善したい。 【成果等】 ・ペーパーレス化ができた。 ・デジタルの連絡帳で従来の学級通信以上の発信ができています。 ・保護者への理解を得るために、取り組みせ方についても日々の連絡帳などに示すようにし、取り組みやすい環境づくりに努めた。 ・iPadの使い方や設定について保護者会で話した。 ・AIドリルの活用を進めるにあたり保護者の理解が得られるように説明に努めてきた。 ・自由提出箱の活用を進め、児童保護者から評価を得ている。		

・日々の学習の様子を動画にして配信できた。 【課題等】 ・学校としてデジタル教材のメリットデメリットを共有すべき。 ・ロイロノートに業務を頼りすぎている。 ・親子で使うiPadに高学年になるほどできていない。		
3. 生活指導・児童活動・保健衛生・環境整備の重点 (1) 目 標 ○ 規範意識を育成し、高めていくため徹底した指導を行う。 ○ 子どもたち自らが諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。また異年齢交流を深め、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる。 ○ 子どもたちの心身の健康を中心に、安心・安全を考慮した集会や活動を計画し、実施する。		
評価項目	取り組む内容(指針)	達成状況
①生活指導と安全	挨拶、身だしなみ、登下校マナーの徹底指導をしていく。統一した生活指導を目指し、教員自らが率先垂範を心がけて指導に取り組む。	B
②児童活動	充実した学校行事や異年齢の交流活動(フロア活動、クラブ、委員会など)を計画し、工夫して実施する。	A
③保健衛生と体育	怪我や熱中症、感染症等の予防や対策を実施していく。	A
結 果 と 分 析 ・ 次 年 度 へ の 改 善 点		
①規範意識の育成と徹底指導 【進展結果】 ・児童の個別対応が増えつつある中で、身だしなみや登下校のマナー指導の浸透が課題。 ・教員間の指導基準にばらつきがあり、ルールを明確化し、一貫した指導が求められる。 ・児童が進んで挨拶できるように促しているが、まだ十分な成果が出ていない。 【課題・今後の改善点】 ・ルールの明文化と共有を強化し、教員間の指導基準を統一する。 ・児童が自主的に規範意識を高められる活動の導入(例: 挨拶リーダーの設定、マナー向上キャンペーンなど)。 ・登下校時のマナー指導を学校だけでなく、家庭とも連携して進める。 ②自主性・異年齢交流の促進 【進展結果】 ・コロナ禍の影響を乗り越え、異年齢交流の機会が増加。 ・縦割り活動や委員会活動により、児童同士のつながりが深まった。 ・児童が自らイベントを企画する場面はまだ少なく、教師主導の要素が強い。 【課題・今後の改善点】 ・児童が自主的に行事を企画・運営できるように支援する仕組みの構築。 ・1・6年生の縦割り活動の関係性にばらつきがあり、学年間の関わり方を均等にする工夫が必要。 ・縦割り活動や異年齢交流の中で、児童のリーダーシップを育てるプログラムの導入。 ③心身の健康と安全管理 【進展結果】 ・健康管理の取り組みとして、換気・手洗い・消毒・熱中症対策を徹底。 ・体育授業や校外学習時の安全確認を強化し、怪我の発生率を減少させることができた。 ・コロナ前の通常の活動へ徐々に戻しているが、感染症対策とのバランスが課題。 【課題・今後の改善点】 ・学校全体での健康管理体制を見直し、統一基準を確立する。 ・体育活動中の安全対策や水分補給のルールをさらに明確化。 ・怪我や感染症発生時の対応を迅速化し、教職員間の情報共有を強化する。 <総括> 最終の学校評価では、規範意識の向上、児童の自主性育成、安全管理の強化が重点課題として取り上げられる。この課題に対して、指導基準の統一、児童の主体的な取り組みの促進、健康管理の充実を進めていく。		

(1) 目標

- | 評価項目 | 取り組む内容(指針) | 達成状況 |
|-----------------|---|------|
| ①進路指導
(基礎学力) | 全学年において、基礎学力を身につけさせる取り組みを個に応じた指導ととも
に、学年に応じた学習習慣を身につけさせ、進路保障につなげていく。 | B |
| ②学習評価 | 全学年において、学力推移表(進路指導部作成)や日々の学習記録をもとに、子ども
ひとりひとりの学力を伸ばしていけるようにする。また、4年生以上で基礎学力検定を
年間2回実施し、基礎学力の定着をより確かなものにしていく。 | A |
| ③キャリア教育の
充実 | ・低学年では、自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、さまざまな活動へ
の興味・関心を高めながら意欲と自信をもって活動できるようにする。
【例】 信貴山学舎・吉野学舎・郵便局の仕事・係活動など
・中学年では、友だちのよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割を
自覚することができるようにする。
【例】 比叡山学舎・中学学習旅行・低学年集会のリーダー・生駒登山・係活動など
・高学年では、苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが
集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする。
【例】 東京学習旅行・修学旅行・瀬戸内臨海学舎・社会見学・たてわり集会・生駒登
山。将来の夢を掛け軸に表現・卒業Movieに将来の夢を伝え合う。 | B |

①内部推薦の判定に「基礎学力を有する」基準を加えて運用することができた。本年度、附属中学校へは豊岡中学1名を含め61名の進学を決定した。これは、学年全体の人数の50%にあたり、昨年より13人増であった。また、学年全体における内部推薦認定率は約88%(昨年87%)で微増であった。また、全学年において、基礎学力定着のための新たな授業形態を取り入れるなどして、課題に取り組ませることができた。その結果、低学力層への児童への補充指導を進めやすくなり、学力向上につなげることができた。ただ、一部、学力定着にはまだまだ時間がかかる児童がいるのが現状である。

②個々の学習状況の把握に努め、必要に応じて補充学習等を取り入れた。特に、学力に課題のある児童に向けての指導を重点的に行うことができた。また、4～6年生対象に基礎学力検定を実施し、基礎学力の定着を確認するとともに、個々の教員の授業力の改善を意識した指導が展開されている。

R04国語全範囲訂正													
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
第1学年 国語科 平均	88.1	86.6	80.3	80.1	74.8	78.2	72.3	77.7	78.0	77.4	80.2	77.9	79.0
第1学年 算数科 平均	95.3	93.4	93.3	93.9	93.2	92.0	90.7	93.9	92.8	94.8	92.3	91.5	92.7
第1学年 2科 平均	183.3	180.1	173.6	174.0	168.0	170.2	163.1	171.6	170.9	172.2	172.5	169.4	171.7
R04国語全範囲訂正													
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
第2学年 国語科 平均	86.3	83.7	76.5	79.7	81.3	81.7	82.8	77.0	76.3	78.3	68.4	72.5	72.4
第2学年 算数科 平均	86.3	87.4	81.1	87.0	83.7	84.0	81.9	79.5	80.2	81.0	76.9	76.7	81.3
第2学年 2科 平均	172.6	171.1	157.8	166.6	164.9	165.8	164.7	156.5	156.3	159.3	145.3	149.2	153.7
R04国語全範囲訂正													
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
第3学年 国語科 平均	73.8	76.2	73.9	74.0	73.7	77.4	73.2	77.5	72.6	74.4	70.1	59.5	64.6
第3学年 算数科 平均	78.9	78.9	81.6	81.0	81.5	81.7	77.7	77.5	72.7	79.9	81.3	75.9	75.3
第3学年 2科 平均	152.7	155.0	155.5	155.0	155.3	159.1	151.2	155.0	145.3	154.3	151.4	135.4	139.9
R04国語全範囲訂正													
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
第4学年 国語科 平均	77.6	81.9	79.4	77.3	76.1	76.4	78.6	71.0	74.2	72.2	70.9	69.2	71.2
第4学年 算数科 平均	79.6	79.3	79.0	77.7	76.0	74.3	74.5	72.0	71.4	69.5	73.2	76.8	71.2
第4学年 2科 平均	157.1	161.2	158.3	155.0	151.8	150.7	153.1	143.4	145.6	141.7	144.1	146.0	142.4
R04国語全範囲訂正													
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
第5学年 国語科 平均	77.4	81.5	81.5	82.1	80.3	78.2	79.8	78.2	77.2	74.3	58.1	58.8	62.2
第5学年 算数科 平均	74.8	74.8	76.5	74.0	68.5	66.5	67.8	66.7	61.2	61.0	71.3	66.7	65.9
第5学年 2科 平均	152.3	156.3	156.6	156.2	148.9	144.7	147.7	144.9	138.4	135.3	129.4	125.5	128.1
R04国語全範囲訂正													
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
第6学年 国語科 平均	79.1	76.6	77.9	74.8	73.5	73.1	71.4	76.1	70.8	68.0	60.8	58.0	56.8
第6学年 算数科 平均	74.8	73.0	74.8	75.6	71.5	68.3	67.3	71.1	66.8	62.3	64.8	65.9	63.0
第6学年 2科 平均	154.0	149.7	152.7	150.4	145.0	141.8	138.7	147.2	137.6	130.3	125.6	123.9	119.9

5 児童募集・学校情報発信の重点		
(1) 目標		
○ 教育活動を広く公開、発信することで本校の魅力を校外に伝え、定員確保に向けた児童・園児募集を展開する。		
○ 授業や行事の実践を保護者に発信することで、児童が安心して登校できる、信頼される学校づくりを目指す。		
評価項目	取り組む内容(指針)	達成状況
①情報の発信、児童園児募集活動	プレススクールや説明会、各種入試イベントで、本校の魅力を参加者に伝えたり、きんちゃんしょうちゃん日記で本校の教育活動を発信したりする。見学者の来校に備え、魅力ある校内環境の整備に努める。	A
②保護者に向けた情報発信	学年通信や学級通信、教科通信、ロイロノートでの発信などを通して日ごろの授業や行事の様子を保護者に伝えることで、信頼される学校づくりを目指す。また、保護者の子育ての支援の一助となる取り組みを継続して進める。	A
取り組みの進展結果、課題等		
①きんちゃんしょうちゃん日記、youtube、Instagramの発信を継続させることができた。受験家庭だけではなく、在校生の保護者もご覧になっており、少しずつ広まっている。月刊近小に参加者の中にはほぼ皆勤の方もおられ、私学として、保護者に良い発信ができていると思う。プレススクール・説明会等、各イベントにおいては、先生方のご協力のおかげで、定員以上の出願者を維持できている。「先生方の魅力」という面も大きく、大変ありがたい。クラスや授業の業務を置いて、広報に手を貸してくださる先生方の陰に、それをフォローしてくださる先生方のお力もあり、学校全体で広報活動に取り組むことができています。教室環境や廊下・空き教室の環境を整えることは「広報のため」ではなく、過ごしやすく学びやすい環境を整えることであるので、「いつもお客様をお迎えしてもよいように」という声掛けで、児童にも習慣づけさせていく必要がある。 ②耐寒登山応援隊への参加や、月刊近小などで保護者が参加することについて、「近小ファン」を増やす良い機会になっている。 ロイロノートでの連絡帳について、動画や写真を通して保護者に学校の様子を伝えること、また児童が一日を振り返り、記録し、担任と共有することにおいて、有意義なものになっている。一方で「発信について、保護者の要求に答えようとするとおのずと頻度が高くなり、他の業務を圧迫することになっている。また児童に書かせている内容への対応や返信が十分にできない。」という声も複数の先生方から上がっている。クラス間や学年間の差も気にされることだと思う。毎日の業務であるからこそ、より効率よく、従来上の効果をあげられる方法がないか、全体で考えていかなければならない。		

(2) 児童アンケートの考察

アンケート結果からは、児童の生活全般において、基本的な生活習慣や規範意識の定着に課題が見られた。「あいさつを心がけている」「身のまわりの整理整頓ができています」「ていねいな言葉づかいをしている」「時間を守って行動している」といった項目では、高学年の児童において「はい」と回答した割合が50%を下回っており、学年の進行とともに規範意識や社会性が希薄になっていく傾向が見受けられる。これらは、社会生活を送るうえで欠かせない基本的な内容であり、今後の指導において重点的に取り組む必要がある。

また、「自分から学習に取り組んでいる」といった学習面の項目についても、高学年では肯定的な回答が低く、自主性の育成や学習習慣の定着が十分とは言えない状況である。さらに、「困ったときに相談できる先生がいる」と答えた児童も、高学年ではやや低調な傾向が見られ、周囲の大人との信頼関係に対する安心感が希薄になりつつある可能性も懸念される。こうした結果からも、児童の成長とともに、基本的な生活習慣の定着に加え、規範意識や社会性を育むことの重要性があらためて浮き彫りとなった。

これらの結果を受け、学校としては、児童一人ひとりが社会の一員としての自覚を持ち、集団の中で規律を守りながら行動できるよう、日常生活の中での指導をより丁寧に行っていく。

保護者に対しても、日常のあいさつや言葉づかい、整理整頓、時間を守る行動など、子どもが基本的な生活習慣と規範意識を自然に身につけられるよう、声かけや見守りをお願いした。また、自主的な学習に取り組む姿勢を促すことも、社会性や自立心の育成に大きくつながることから、子どもが安心して話せる家庭の雰囲気づくりにも引き続き協力していただけるようお願いした。

(3) 保護者アンケートの考察

1. 学校の教育方針について

本校の教育方針について、多くの保護者の皆様から「わかりやすく伝えられている」との肯定的なご意見をいただいた。一方で、学校の取り組みや方針について、より具体的な情報提供を求める声もあった。今後は、保護者がより理解を深められるよう、学校便りや説明会の充実を図るとともに、ホームページや保護者向けの資料を活用し、情報発信の強化に努める。

2. ICT活用について

タブレット学習については、利便性を評価する意見がある一方で、紙の教材とのバランスを考慮した活用を求める声もあった。特に、漢字学習アプリの使用に関しては、採点基準が厳しく、児童の学習意欲に影響を与える可能性があるとの指摘があった。今後、児童が学習しやすい環境を整えるため、ICTの活用方法についてさらなる研究・検討を行い、より効果的な学習支援に努める。また、警報時や学級休業時のオンライン学習についても、家庭での学習支援がより充実するよう、運用の見直しやサポート体制の強化を進めていく。

3. 学習環境と学習支援について

学習の進度に関して、児童一人ひとりに応じたフォローを充実させてほしいとの意見があった。また、低学年の漢字学習では、基礎の定着を優先して進めることを希望する声もあった。一人ひとりに応じた学びを進めていきながら、今後も教員がよりきめ細やかに支援を行い、児童の意欲と主体性を高めるための授業改善に努めていく。

4. 学校生活と安全面について

感染症の流行時には、診断の有無や発症時期のずれにより、学校の対応や学級休業の判断が遅れる場合があった。今後は、迅速かつ明確な情報提供を行い、保護者の皆様との連携をより強化していく。

通学時の安全確保については、電車内やホームでの公共マナー指導や安全対策の継続を求める意見があった。災害発生時や事故等の緊急対応においては、児童の安全を最優先に考え、引き続き適切な対応を行っていく。

緊急時の連絡については、学校への電話連絡を極力控え、CyberCampusでの通知を必ず確認してもらう。また、必要に応じて、推奨している子ども向け携帯電話を活用し、個別の連絡をお願いした。

来校時の公共交通機関利用について、近隣住民の方々や商業施設より迷惑駐車や最寄り駅でのマナーについての苦情が寄せられている。保護者には改めて、公共のルールの遵守をお願いする。

また、学校生活における規律正しい生活習慣の確立について、毅然とした指導を求めるご意見もあった。学校の秩序を著しく乱す行為については、必要に応じて別室登校や出席停止などの措置を講じる。改善が見られない場合には、転出を含めた対応を検討せざるを得ない場合もある。学校としては、児童がより良い学習環境の中で健全に成長できるよう、適切な指導を継続する。

5. 行事や学校運営について

今年度は、12月に感染症等による児童の欠席や学級休業があった。音楽会の開催時期に関する意見もあったが、会場の都合や他の行事との関係上、日程の変更は難しい状況である。学校としても、児童が十分な準備をして本番を迎えられるよう、感染対策や練習環境の充実に努めていく。

学習旅行については、多くの児童が貴重な経験を積む機会となり、成長につながったとの肯定的な意見をいただいた。今後も、児童が安心して充実した経験を積めるよう、安全管理を徹底し、より良い学習旅行の実施に努めていく。

6. ケータリングについて

ケータリングについては、これまで多数の意見があった回数について、業者との連携・調整を図り、来年度より、週4回・5回の選択制にした。試食会やアンケートの実施を検討し、児童や保護者の皆様の意見を反映した改善について引き続き取り組んでいく。

7. 教員の対応や指導について

先生方の指導に対し、多くの感謝の声をいただいた。一方で、指導の仕方について、児童の状況に応じたより丁寧な対応を求める意見もあった。ネットトラブルやSNS利用に関する指導をさらに充実させるとともに、児童・保護者へ向けた情報提供の機会を増やしていく。

8. その他のご意見

制服や制靴の販売方法、上靴の見直しについての要望を受け、今後の導入可能性の有無や選択肢の拡充について検討を進める。また、授業環境の向上や学校生活の利便性向上についても、引き続き取り組んでいく。

(4) 学校評価委員会から

(出席者…校長、教頭補佐、保教会会長、保教会副会長、同窓会会長)

- ・学校の、授業改善への取り組み、充実した学校行事、教員のきめ細やかな対応などについて、好意的な感想をいただいた。
- ・今後、大切になってくる児童募集について、保護者や卒業生も大いに協力する、という言葉もいただいた。ポスター掲示の方法など、具体的なご意見もいただいた。
- ・家庭と教員が、互いをより理解し合いながら教育活動を行っていくことについてもご意見をいただいた。